

THE YMC A

日本YMCA基本原則

私たち日本のYMCAは、
イエス・キリストにおいて示された
愛と奉仕の生き方に学びつつ
世界のYMCAとのつながりのなかで、
次の使命を担います。

私たちは、
すべての人びとが生涯をとおして
全人的に成長することを願い、
すべてのいのちを
かけがえのないものとして守り育てます。

私たちは、
一人ひとりの人権を守り、
正義と公正を求め、
喜びを共にし痛みを分かちあう
社会をめざします。

私たちは、
アジア・太平洋地域の人びとへの
歴史的責任を認識しつつ、
世界の人びとと共に
平和の実現に努めます。

2013年10月1日発行(毎月1日発行)
昭和22年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円(外税)(送料60円)
発行/公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区本塩町7
TEL:03-5367-6640 FAX:03-5367-6641
URL:http://www.ymcajapan.org/
発行人/島田 茂 編集人/山根 一毅
印刷/あかつき印刷株式会社

若者よ、 ワークキャンプへ 行こう

難民事業本部関西支部
神戸YMCA 国際委員長
中尾 秀一



ワークキャンプというのは、考えてみれば不思議な体験です。遠く離れた外国の、名も知らぬ小さな村に出掛け、そこに参加しなければ決して出会うことのなかった人びとと共に汗を流し、古くからの友人のように語り合う。そんなことができるのが、ワークキャンプです。

外国に行ったことがないし、行きたいとも思わない。そんな人にもぜひ参加してほしいと思います。飛行機を降りると、スパイスと果物、土ぼこりが混ざったようなその国独特の匂いに気が付くはずで。バスに乗ってキャンプ地の村に近づいてくると、その匂いはどんどん強くなっていきます。匂いだけではなく、風や太陽の色、そこにいる人びとの息遣いも日本とは違います。インターネットで情報や映像は簡単に手に入るようになりましたが、そこに行かなければ感じられないものはたくさんあります。

私が行っても何も役に立たない、と尻込みしている人にも、思い切ってチャンレンジすることを勧めます。ワークの内容は、学校施設の建設、環境保全のための植林、子ども達のためのレクリエーション等さまざまですが、多くのキャンプ地はアジアです。とても暑いです。残念ながら私達には体力も技術もなく、現地に滞在できる時間も限られている

ので、大きなことはできません。でも、自国の人にも知られていないような小さな貧しい村に、日本人がやって来て、そこにある課題のために活動するという出来事は、村の人びとにとって、小さくても、とても意味のあることです。現地のYMCAは地元の人びとと何度も話し合っ、ワーク地、ワークの内容を決定します。ですから、人びとが本当に必要としている支援が可能となるのです。

英語がしゃべれないと心配している人も、大丈夫。YMCAのワークキャンプは、現地の若者とずっと一緒です。使い方が分からないとトイレまで付いてきてくれます。引っ込み思案の人でも、コミュニケーションを取らざるを得ない状況になります。最初は戸惑うかもしれませんが、少し苦痛かもしれませんが、頭も体もフル回転でやり取りを重ねるうちに、すぐに打ち解け合うことができます。現地の若者と語り合う中で、今まで出会うことのなかった価値観や人生観に触れることもあるでしょう。そして帰国後、この経験によって自分自身の価値観が少し変わったことにも気が付くはずで。

そんな素敵な不思議が起こるのが、ワークキャンプです。さあ、皆さん、行きましょう。

ラポール

相手と向き合って
心を合わせていくこと。
(仏語:親和・共感的関係の意)

ひとりから、ふたりへ

「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる」(ルカ11章9節)。

聖書にあるイエスのこの言葉を、あなたならどのように受け止めますか。

イエスは「君たちが欲しいものを求めよ」と言われたのでしょうか。

実はこの言葉の直前に、興味深い小さなたとえ話が語られています。そこでは真夜中に二人の人が必死に家の戸をたたいています。一人はお腹を空かせた旅人。もう一人はその旅人に起こされた家の人です。この人自身はお腹が空いているわけではありません。が、旅人に提供するパンがないので、隣家の家の戸を必死にたたいてお願いをしているのです。「何時だと思ってるんだ!」と叱られながらも、諦めることなく頭を下げてお願いをし続けます。

考えてみたらおかしな話です。この人は、最初に旅人が訪ねてきた時に断ることもできず、「ごめんさい、あいにくわが家にはパンがありません。ほかをあたっても

らえませんか」と。でも、彼は戸を開けて「出会ってしまい」、真夜中に一緒に外に出て行って、自分も戸をたたき者となったのでした。

イエスはそのように、彼らが「ひとりから、ふたりへ」、共に祈り、行動する者に変えられていく出来事を引き合いに「求めよ、探せ、門をたたけ。そうすれば、必ず天の父は必要なものを与えてくださる」と言われたのです。ですから、このイエスの言葉は、「君たちの欲しいものをどんどん神様にお願いしなさい」という勧めでは決してありません。そうではなく、「君たちが誰か命の危機にある人と出会い、心動かされ、自分もその人と一緒に祈り願う者、行動する者に変えられていく時、そういう祈りを神様は必ず聞き届けてくださるのだ」と励まされたのです。

東日本大震災と原発事故から2年半。必死に戸をたたき音が消え、覆い隠されていこうとしています。真夜中に聞こえる音に心を澄ませ、戸を開き、外に出掛けていく私でありたいと願います。

日本バプテスト連盟
大井バプテスト教会牧師

加藤 誠

A Step to the World YMCAの国際ワークキャンプ

多様な文化、価値観との出会い

さまざまな国や地域へ足を運び、困難な状況にある人びとに寄り添い、共に汗を流し、課題解決に取り組むワークキャンプ。YMCAでも70年以上の歴史を紡ぎ、多くの若者達がワークキャンプを通して世界への一歩を踏み出してきました。今月の特集では、ワークキャンプの一連の流れとその魅力を、ワークキャンプに長年携わってきた担当ディレクターの思いとともに紹介します。

ワークキャンプ、いいかも!

まずは、どの国・地域で、どんな活動をしているのか、キャンプの目的は何かを情報収集。一歩を踏み出すためには、自分はこの国に行ってみようか、「環境」や「子ども」等、どんな分野に関心があるかを考えてみることも必要です。YMCAにはユース世代を対象とした補助金制度等もあります。

事前にしっかり準備

YMCAのワークキャンプでは、「事前研修」や「事前準備会」が実施されます。キャンプ前に複数回の準備会が実施される場合もあり、実際に足を運ぶ前の大切な時間です。

「これぞ異文化体験!」と受け止めるポジティブ思考

このワークキャンプは、これまでに数々のドラマを生んできました。プログラムについての話し合いでは、互いにコミュニケーションの取り方に不安を感じながらも、相手のことを知りたがり、理解したいという強い思いを支えに、日本語、英語、インドネシア語、ジャバ語等が、一つの空間にひしめき合います。食事、トイレ、お風呂等、日常生活や文化の違いに驚きの連続であつても、「これぞ異文化体験!」と受け止めるポジティブ思考。何よりインドネシアの人びと、特に子ども達との出会いは若者を変えていく体験です。

現地の青年達との出会い

YMCAは世界に広がる青少年団体。ワークキャンプも現地の青年達と一緒に取り組みます。双方にとって母国語ではない英語でのコミュニケーションも大きなチャレンジの一つです。

現地に到着!

目的地はワークキャンプをする町や村。国際線から、国内線や他の交通手段に乗り換えて移動します。舗装されていない山間部の道をバスで移動したり、地元の人達が利用する列車で長距離を移動することも。車窓から見える風景の移り変わりに、文化の違う土地に来たことを少しずつ実感します。

ワーク開始

ワークキャンプの中心となるのは「ワーク」。その内容はさまざま、各地域のニーズに合わせた、将来的に持続して役立つ働きが求められます。子ども達へのレクリエーションプログラム等、YMCAらしい地域活動を地元の青年達と実施することにも取り組んでいます。

共に汗を流すこと

相手の意見に学ぶこと

17年続いた私達の活動で大切にしていること。それは、自らが困難な中にもありながらもより良い社会をつくるために働く現地の人びと、共に汗を流すこと。そして、自分の思いを語り、相手の意見に学ぶこと。そこから、「誰のために何をすべきか」という疑問を生む前に感じている問いに対する明確な答えが生み出され、具体的な活動へとつながります。

「何がしたい」「誰かの役に立ちたい」という気持ちがまずは参加を決める動機となります。そして、貧困や環境破壊、子ども達の教育といったさまざまな問題を背負いつつ解決に向けて懸命に生きる現地の人びとと出会うことで、途上国に赴き実際の活動に携わる意味を、参加者の皆さんと一緒に考えたいと思います。

ジョグジャカルタワークキャンプ — YMCAせとうち

地震と火山噴火の被災地で2007年から行う。日本とインドネシア双方の若者が一緒に、レクリエーションプログラムを考え、実施する。



リトル・ケアという施設にて。日本の遊びを紹介する「手押し相撲」が大好評。2人組になって、あちこちで遊ぶ子ども達の姿があった。(撮影:白鳥雅人)

ミャンマーワークキャンプ — 大阪YMCA

ミャンマー・マンダレーYMCAが実施しているアフタースクールと協力しながら、教育環境の整備やレクリエーションスポーツ活動を実施。



小さな彼女は、ユースリーダーに興味津々。リーダーは表情やボディランゲージ、ちょっと覚えたミャンマー語を使って、精一杯向き合う。(撮影:吉田有美子)

さよならと帰国

「まだ帰りたい!」「また絶対会おう」。現地の人びととの名残惜しい時間も束の間、帰国後の報告書の担当を決める時点では、参加者は日本で暮らす現実の自分に向き合います。キャンプから帰れば自分にも所属する社会があり、ワークキャンプ前とは違う経験をした自分がある。ワークキャンプを通して、自分のこと、自分達の社会のことをあらためて考える機会となります。

子どもが未来を創る一かけがえのないいのちと平和 YMCA国際協力募金

本紙でご紹介したワークキャンプの運営や青年の参加支援のためにYMCA国際協力募金がいわれています。この他、子どもや青年達が豊かに生まれ、平和な未来を築いていくための活動や、困難な状況にある人びとのための活動もこの募金で支えています。

YMCA国際協力募金は

- 自然災害や紛争、貧困によってのちが危険にさらされている子ども達のために
- 国内外の青年のリーダーシップ育成のために
- 災害被災地の中長期支援のために
- 平和を創りだす活動のために

用いられます

主な支援活動(日本YMCA同盟を通じた活動)

アフガニスタン難民支援(ラホールYMCA小学校)、パレスチナ難民支援(東エルサレムYMCA)、東ティモールYMCA活動支援(平和構築人材育成)、インドネシア火山噴火被災地支援

皆さまのご協力をお願いします

募金していただくこと、街頭募金やイベントへご参加いただくことが活動を支えています。2012年度の全国YMCA募金総額は49,456,925円でした。心より感謝申し上げます。今年度もご協力のほどよろしくお願ひいたします。詳細はお近くのYMCAにお問い合わせください。



各地のYMCAで行われる街頭募金には、子どもから大人までが楽しく参加。(写真:東京YMCA)

「子ども達の笑顔は、地域の元気につながる」



盛岡YMCAのボランティアリーダーとしてスマトラ沖地震・津波で被災したスリランカ東部での支援ワークキャンプに参加。以来、東ティモール、タイ等のYMCA活動に携わり、2010年より横浜YMCAに勤務。2011年度には、盛岡YMCA古古ボランティアセンターのスタッフとして働く。

子ども達と無心になって遊び、大笑いする。貧困に苦しむ途上国や、大きな災害の被災地では、このような環境をつくるのが心のケアにつながります。子ども達の笑顔を見ている周りの大人達も、本当はそんな状況ではないのに、いつの間にか一緒に笑っている。子ども達の笑顔は、地域の元気につながる大きなパワーになります。そして、子ども達と心身共に健康に育つて、地域を支える力になってくれればと願っています。私は、幼いころからYMCAの活動に参加し、大学生になつてからはボランティアリーダーとして育ちまし

2013年度全国YMCAワークキャンプ実施一覧

| YMCA | キャンプ名(派遣先地域・受入YMCA) | 実施 | 内容 |
|------|-------------------------------|-------|-----------------------------------|
| 北海道 | ベトナムボランティアワークの旅(ベンチエ省) | 8月上旬 | 農村の小学校の教室建設 |
| 仙台 | タイ農村ワークキャンプ(バンコク他) | 3月上旬 | 農村でのワーク、ホームステイ、人身売買問題等の学習 |
| とちぎ | フィリピンボタスタラ村交流キャンプ(オボタス・タラ村) | 8月上旬 | 現地の青年達との交流、フィリピンの社会問題等の学習 |
| 埼玉 | フィリピン青年友好ワークキャンプ(リビガシヤ・YMCA) | 2月中旬 | ワーク・レクリエーション活動、地域支援活動、セミナーやホームステイ |
| 横浜 | 第19回ミャンマー・ボランティアの旅(ビティンYMCA他) | 12月下旬 | サイクロン被災地支援、医療公衆衛生活動、現地の人びととの交流 |
| 富山 | ベトナムスタディーツアー(ベトナムYMCA) | 8月下旬 | フーチェン村の子ども達との交流、クチ養護施設の子どもの面会 |
| 富山 | ベトナム・カンボジアピースキャンプ(ホーチミン市他) | 2月下旬 | 養護施設訪問、チャイルドケアセンターの子ども達との交流 |

| YMCA | キャンプ名(派遣先地域・受入YMCA) | 実施 | 内容 |
|------|---------------------------|------|-----------------------------------|
| 大阪 | ミャンマーワールドキャンプ(マンダレーYMCA) | 2月 | アジア地域の青年達が協働で子ども達の平和学習プログラムを実施 |
| 神戸 | タイ・ユース・ワークキャンプ(チェンマイYMCA) | 3月上旬 | 村でのホームステイ、施設建設、ユース・文化交流、フィールドスタディ |
| せとうち | ジョグジャカルタワークキャンプ(スレマンYMCA) | 9月上旬 | 韓国晋州、台湾彰化との合同プログラム |
| 広島 | フィリピンワークキャンプ2014(セブ島他) | 3月下旬 | ストリートチルドレン支援、スラム街視察、セブYMCA学生との交流 |
| 福岡 | ケニアスタディーツアー(ケニアYMCA) | 9月上旬 | 孤児院訪問、ケニアの文化の学習、子ども達との交流 |
| 熊本 | タイユースワークキャンプ(チェンライ・チェンマイ) | 8月下旬 | 山岳民族の村でのワーク、現地青年との交流 |

※次年度以降の実施や詳細につきましては各YMCAにお問い合わせください



NEWS
各地の動きをご紹介します。

●子育て中の方を対象に“色によって心を解放”
—カラーセラピーセミナー開催

— 神戸YMCA

8月3日、神戸YMCAでは西宮YMCA保育園ホールにて、地域の子育て中の保護者の方を対象にカラーセラピーセミナーを開催しました。子育て、仕事、家事等で、忙しい毎日を送る19人の参加者が、心の中にあるさまざまな思いを色に変えて、表現をし、静かに自分の心と向き合う時間を過ごしました。



カラーセラピーで子育て中の地域の保護者を応援

今セミナーの講師は、阪神淡路大震災以来、絵を描くことによって子どもの心を開き、元気にしたいという思いから、「子どものアトリエ」活動を開始された藤井昌子先生。藤井先生は、現在も神戸地域を中心に、また東日本大震災の被災地でも活動しています。今回の主役は保護者の方々でしたが、保護者の元気は子どもの元気を支えます。藤井先生のリードのもと、色鉛筆やクレパスを手に、思い思いの画用紙に向き合う参加者の表情は次第に穏やかになり、終了後は「よい気分転換になった」「色にもそれぞれ意味があること、絵が得意でなくても心の思いを絵にすることができることを知った」等の感想が寄せられました。

子どもが健やかに育つために、その一番の支援者である保護者の方にも、心と体を元気にしてほしいという思いを込めて開催された今回のセミナー。短い時間でしたが、「色によって心を開放する」時間を提供することができました。

今年は社会福祉法人神戸YMCA福祉会が設立されて25年目を迎えます。子ども、家庭、地域に仕えることを大切に、これからもすべてのいのちが尊重される社会づくりを目指して歩んでまいります。

(神戸YMCA 谷川 尚)

●東日本大震災による原発事故から2年半
—心身のリフレッシュのためのキャンプ開催

— 国際青少年センター東山荘

8月4～10日、国際青少年センター東山荘では、北カリフォルニア日本文化コミュニティセンター（JCCCN）*の支援による「第1回くろっちょキャンプ」を実施しました。東日本大震災による原発事故の影響を受けている家族の心身のリフレッシュが目的です。キャンプ名の「くろっちょ」とは、東山荘のある御殿場市の市鳥である「くろつぐみ」の愛称です。その鳴き声が「今日も来て、来て」と聞こえることから、「またいつでも東山荘に来てほしい」という願いを込めてつけました。

東山荘は、2011年夏より被災者や避難者を対象に、雄大な富士山での散策や水遊び、キャンプファイヤー、木工教室等、屋外での活動や自然に触れる機会を多く取り入れた、心身のリフレッシュを図るキャンプを継続して実施しています。「くろっちょキャンプ」では、サンフランシスコに事務局を持つJCCCNとのインターネットによるテレビ電話での交流も行われ、参加者から現在の生活の様子や支援への感謝の気持ちを伝える機会も設けられました。

参加した子ども達はプログラムに積極的に参加し、自由時には東山荘内を駆け回っていました。また、その様子をほほ笑んで見守れる保護者の姿もありました。その一方で、震災から2年半が経過した現在も、放射能の測量計を手放せないでいること、人びとの間で放射能に対する意識の違いがあること等、日ごろ感じている不安を保護者同士が伝え合う場面もあり、同じ不安を抱える保護者同士で交流を深めていただく機会にもなりました。

(日本YMCA同盟 遠藤 舞)



散策中の富士山にて。地面に横たわり大地を感じる

*北カリフォルニア日本文化コミュニティセンター（JCCCN）サンフランシスコのジャパンタウンに事務局があり、日系アメリカ人の歴史・伝統・文化を維持し、深めることを目的に、文化的・教育的・社会的プログラムを実施するNPO団体。

INFORMATION

学生YMCA 125周年記念フォーラム
「いま、われらが後世への最大遺物を問う」

学生YMCAは、現在全国34大学で、約450人の学生が活動しています。学生達は、各大学の寮やサークルに所属し、他大学や国内外のYMCAプログラムに参加し、さまざまな出会いと学びと体験を通して、「育てられ-育てゆく営み」の中で、若者をめぐる問題や世界の課題と向き合い、社会を担うリーダーとなって巣立っています。



125周年（2008年）には約120人が集った

125周年を迎える本年、記念フォーラムを開催し、2011年の東日本大震災を経験した私達だからこそ「他者と共に今 これからを生きること」を見つめ直したいと思えます。そしてイエスに生き方を学ぶ青年達を元気付け、社会へと送り出す働きを続けるために、互いの出会いや経験を持ち寄り、今後の学生YMCA運動の将来に向けての展望を、共に見いだす機会にしたいと願います。

学生YMCA、都市YMCA、そして学生からシニアまで多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。東山荘で、現在の学生YMCAの学生・青年達の活動を新たに分かち合い、今後に向けてそれぞれの場所から経験と知恵を集めることができますように。

(学生部委員長 瀬口昌久)

日時：11月22日（金）午後7時半から順次集合～24日（日）午後1時解散

場所：日本YMCA同盟国際青少年センター東山荘

講師：高橋哲哉氏（哲学者・東京大学大学院教授）

ゲストスピーカー

森俊介氏（医師・長崎大学YMCA副理事長）

スティーブン・リーパー氏（広島女学院大学教員・公益財団法人広島平和文化センター前理事長）

徳久俊彦氏（東京大学YMCAシニア） 森野善右衛門氏（広島大学YMCAシニア）

記念礼拝：竹迫之氏（学生YMCAシニア、元協力主事、日本キリスト教団白河教会牧師）

参加費：17,000円（2泊3日） 23,000円（3泊4日）

主催：日本YMCA同盟全国協力（担当：横山、森）

2013年度

世界YMCA/YWCA合同祈禱週

世界YMCA・YWCAでは、11月の第2週目の日曜日からの1週間を合同祈禱週として、毎年一つのテーマのもとに、聖書からメッセージを聴き、祈りを共にする時として定めています。今年は11月10日～16日の1週間、「神の求める「変革」となる」というテーマのもとで祈りを合わせます。日ごとの具体的なテーマと参照する聖書の箇所は下記の通りです。

テーマ 神の求める「変革」となる

日程 2013年11月10日（日）～11月16日（土）

第1日 私たちは神から召された存在です
ローマの信徒への手紙12章2節
ガラテヤの信徒への手紙5章13節

第2日 神は「私」に求めています
フィリピの信徒への手紙1章6節

第3日 「Ubuntu」—あなたがいるから私がいる。
私たちは、隣人を通して神の介入と呼びかけを知ることができます
マタイによる福音書22章34～40節

第4日 私こそが「変革」。
私を変えようとする神の呼びかけに答えて
申命記31章6節
ヨハネによる福音書14章6節、10章10節、
ルカによる福音書24章29節

第5日 行動への呼びかけ。私たちは性による不平等に取り組みます
フォーブ・ウイレッツ著「女性の祝福」より

第6日 変革の道具として。YWCAとYMCAは、神の道具として働きます。
マタイによる福音書5章9節
詩篇72編12～13節